

岐阜県本巣市・お互い様隊

特産柿、新米で仮設支援

石巻、女川

週1回、食料送り続ける



富有柿をトラックに積み込む鶴本さん（左）＝石巻市千石町

岐阜県本巣市の「本巣ボランティアお互い様隊」の隊員らが23日、石巻市と女川町の仮設住宅団地を訪れ、特産の「富有柿」6ント、新米4ト

を贈った。お互い様隊は5月中旬から毎週、野菜や米を石巻市に送り続けており、今回は特に大きな支援となつた。

お互い様隊は「旬を迎

えた自慢の柿と米を食べて元気を出してもらいたい」と、生産者から寄せられた柿と米をトラック3台に積んで訪れ、住民に手渡した。

贈られたのは、マル系柿振興会の約580軒の農家が提供した柿約2万4000個と、松久茂盛さんら4軒の農家が提供した新米「ハツシモ」。

隊員や生産者ら15人が石巻市雄勝、北上、牡鹿、河北、女川町の仮設住宅を中心回り、住民に手渡した。

お互い様隊長でタイヤ販売会社を経営する鶴本（つばもと）雅巳さん（32）は、東日本大震災発生後の3月23日、トラックに物資を積んで石巻市を訪れ、惨状を目撃した。

それが本格的な交流のスタートとなつた。

「困った時はお互い様

」という杉山さんの言葉から、本巣市の友人や近所の住民ら14人と「お互い様隊」を結成した。以来

週1回、本巣市の農家から寄せられた米や野菜を段ボール6箱に詰めて杉山さん方と、市議の森山行輝さん（64）方を経由し

て被災者へ届けている。鶴本さんは「厳しい冬を迎え、本巣の富有柿と米を食べて元気を出してもらいたい。今後もこうした支援を続けたい」と

とボランティアに訪れた。営業している飲食店がなく困っていると、石巻市千石町の食品加工販売会社経営杉山勇治さん（63）から食事に誘われ、空きトラックに積んで帰り、26日に本巣市である産業祭で市民に配る。

5月中旬には仲間4人